20261124教育家庭新聞

伴走型支援について考える

～教員研修の取組から～



山下　若菜

Yamashita wakana

熊本市教育センター指導主事
学校DX戦略アドバイザー

Distinguished Educator

熊本市の概要



学校数

幼稚園	6園
小学校	92校
中学校	42校
高等学校	2校
専修学校	1校
特別支援学校	2校



学習用端末

iPad 第10世代

64GB

セルラーモデル

※高等学校はChromebook
Wi-Fiモデル

端末導入数

約65,000台

2018　2021　2025

docomo × 熊本市



次の 100 年を見据えた新たな学びの協創

熊本市 × ドコモの教育 ICT プロジェクト

概要

ドコモのLTEネットワークと2万3,460台のタブレットを全公立小中学校134校に導入

2018年9月、熊本市は23,460台のタブレットとドコモのLTEネットワークで市内全公立小中学校134校の教育ICT環境を整備するプロジェクトを始動させました。これにより、郷本市の子どもたちの学びが、未来に向けて大きく変化しようとしています。

成果

一気に高まる学びへの意欲

「子どもたちの意欲の高まりは、本当にすばらしい」。

授業でのタブレット活用に取組む先生たち誰もがそう口にします。算数にほとんど関心を示さなかった2年生が、タブレットの教材に関心を示し、クラスメイトと一緒に学ぼうとする。授業のなかであまり目立たなかった子どもが、予想外の才能をのしはじめる。感み書きをまだ学んでいない1年生たちが、動画になって自己紹介のビデオを作る――。先生たちは、こうした意欲や、試行への喜びを見つけて、おどめ上げ、仲間の友達と共有し、ときには表現力豊かに発表するという"子ども中心の学び"へとつなげています。その取組みのなかで、子どもたちのプレゼン能力や課題の発見・解決能力は、めきめき向上していると、ある中学校の授業先生は目を細めます。

子どもたちが先生の代りに率先して教壇に立ち、自分の知識やアイデアをクラスの全員に伝えて、フィードバックをえる―。そうした学びが多くの小中学校で展開されようとしています。







先生が変わる、授業が変わる、学校が変わる

先生たちの多くはタブレットを授業に使った経験がなく、また、タブレット未経験者の方もいらっしゃいました。それでも、子どもたちの未来を見据え、教育ICTに取組みはじめた先生たち。それぞれの創意工夫を凝らしながら、また、ドコモ主催の研修や体験やノウハウ、知恵を学校をまたいで共有しながら、授業をどんどん進化させています。

ある小学校の先生は、研修で活用法をつかんだ学習支援ソフトを算数の授業に取込み、子どもの"頭（つまづ）き"の見える化と学び合いに活用しています。また、タブレットを使いながら教科横断型の授業を推進し、学習の相互のつながりや社会とのつながりを学ばせている中学校もあります。同校の校長先生はこう話します。

「これからの学校教育では、自分たちの学びが社会課題解決にどう結び付いていくのかを知ってもらうこと、そして、自ら課題を見つけ、解決に取組むための知識・思考力・行動力を育むことが重要です。

そのための新しい授業づくりが、ICTの活用で勢いよく進展しています」。



熊本市
授業実践集
2023

熊本市教育センター





熊本市
授業実践集vol.2
2023-24

熊本市教育センター

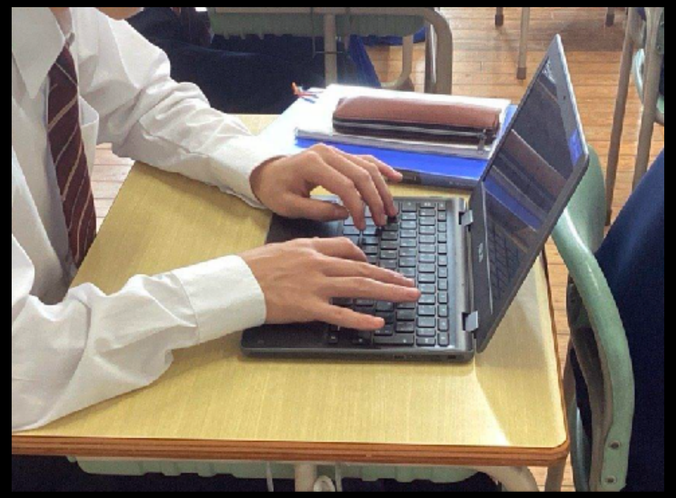


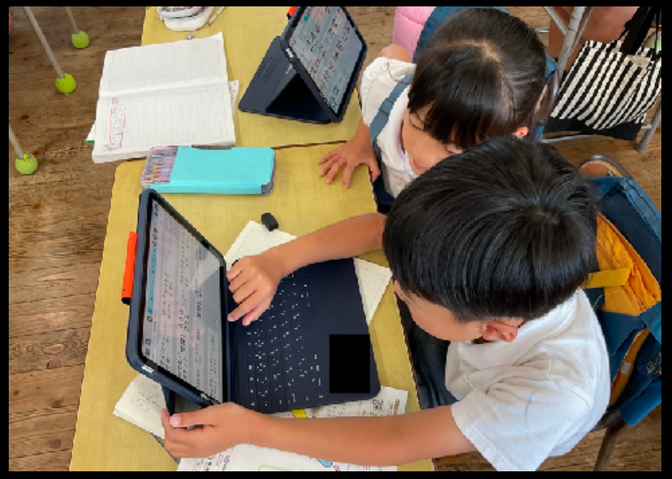




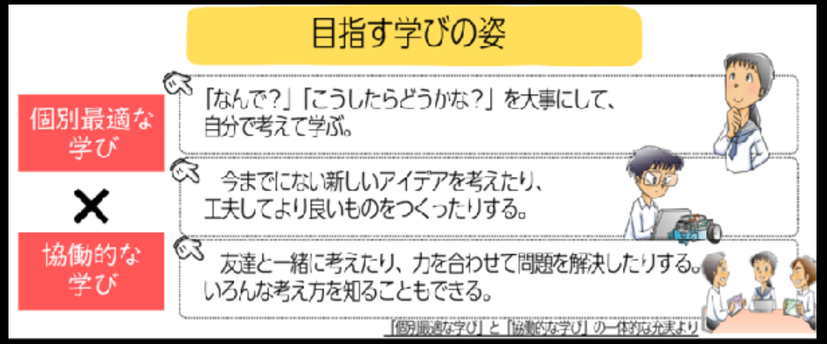



① 調べた内容
② まとめ・ふり返り








目指す学びの姿
個別最適な学び
×
協働的な学び
「なんで？」「こうしたらどうかな？」を大事にして、自分で考えて学ぶ。
今までにない新しいアイデアを考えたり、工夫してより良いものをつくったりする。
友達と一緒に考えたり、力を合わせて問題を解決したりする。いろんな考え方を知ることもできる。
「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実より

これから必要となる力とは何か

自己調整能力
（個別最適）

協働する力
（コミュニケーション）

学び続ける力
（探究）

© YamashitaWakana 2026

これから必要となる力とは何か

自己調整能力 （個別最適）	協働する力 （コミュニケーション）	学び続ける力 （探究）
• 学び方を知っている • 選択することができる	• 友達との試行錯誤 • 個の強みを生かす	• 学ぶって楽しい • 安心安全な環境







© YamashitaWakana 2026

熊本市教育の情報化検討委員会

目的：

　市立学校における情報通信機器の活用方法、実践の成果、課題及び改善方法等、教育の情報化の推進に関すること等について審議すること

委員構成：

・学識経験者（教育学、情報教育、看護、教育工学）
・保護者（PTA経験者）
・学校関係者（管理職、教諭、養護教諭）



令和8年度の内容：

今までのタブレットのメリットとデメリット（学習面、生活面、健康面）について検証する。



令和7年度児童生徒・教員のタブレット端末の活用状況に関する実態調査結果報告

令和8年3月

熊本市教育センター

調査概要

1.調査目的

タブレット端末の「学校での活用」「家庭での活用」に加え、「情報モラル意識」等について尋ねることで活用状況を把握し、今後の活用推進に生かすため。

2.調査設計

（１）調査方法・対象：

	①小学校低学年	②小学校中高学年	③中学生	④教員(小学校)	⑤教員(中学校)
調査対象	小学校1～2年生	小学校3～6年生	中学校1～3年生	小学校で授業を担当している教員	中学校で授業を担当している教員
調査方法	・Microsoftフォームでアンケートを5種類作成 ・タブレット端末にアイコンを配信				
回答結果	9,085人(70.8%) ※R6 8,181人(63.4%)	18,449人(68.9%) ※R6 16,982人(62.8%)	13,818人(70.6%) ※R6 12,773人(65.2%)	1,573人(60.7%) ※R6 1,292人(60.6%)	923人(64.1%) ※R6 737人(61.0%)

（２）期間：令和７年（２０２５年）１２月１５日（月）～令和８年（２０２６年）１月９日（金）

3.備考

・新しいタブレット端末になって初めてのアンケート。
・タブレット端末導入のメリットだけではなく、デメリットを問う設問の設定をした。
・タブレット端末導入前から授業をしている教員に対する設問を設定した。
・回答に自由記述を設定した。
・学校のタブレット端末だけではなく、家庭の端末についても問う設問の設定をした。



― 参考資料 ―

【熊本市タブレットの約束】

- 学びを深め、生活を豊かにするために使います
- 自分のことも相手のことも大切にした使い方をします



↑「タブレットびらき」動画



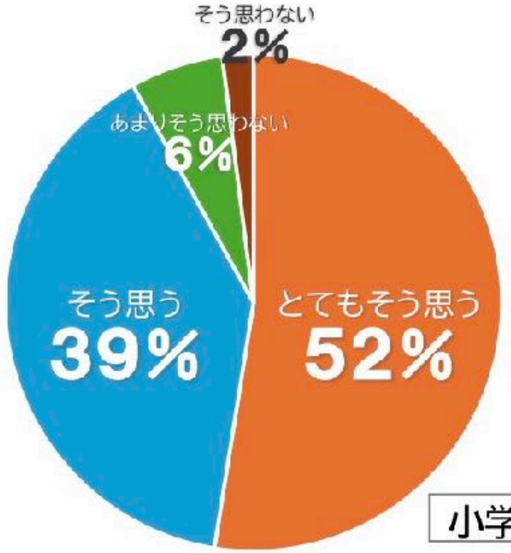
↑リーフレット【児童・生徒編】

端末への意識（熊本市タブレットの約束への意識）

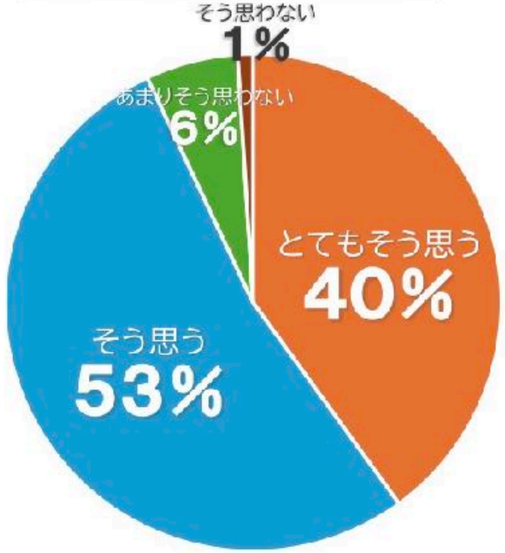
教 子

Q. タブレット端末を「学びを深め、生活を豊かにすること」につなげられていますか

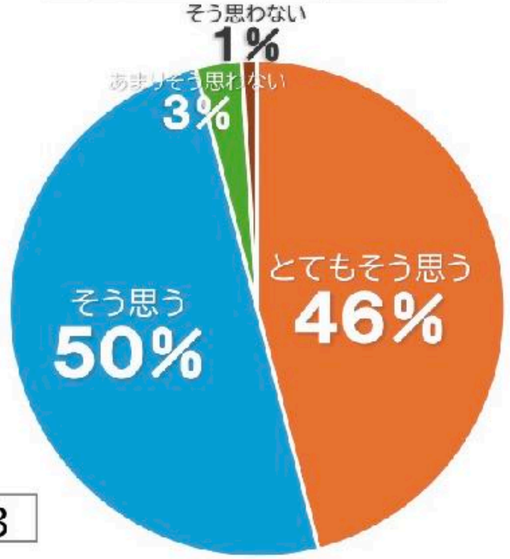
小1～2年生 n=9,085



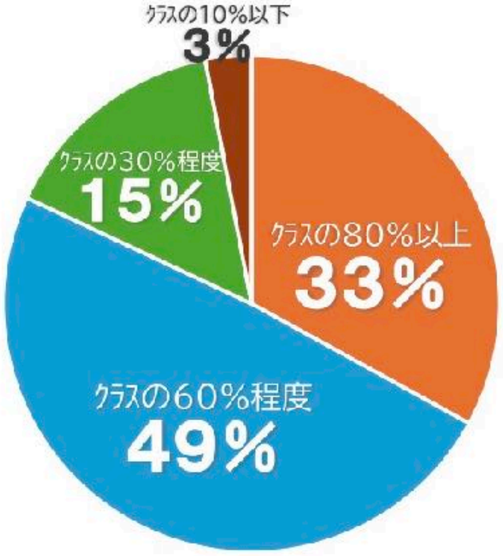
小3～6年 n=18,449



中学生　n=13,818



小学校教員 n=1,573



中学校教員 n=923

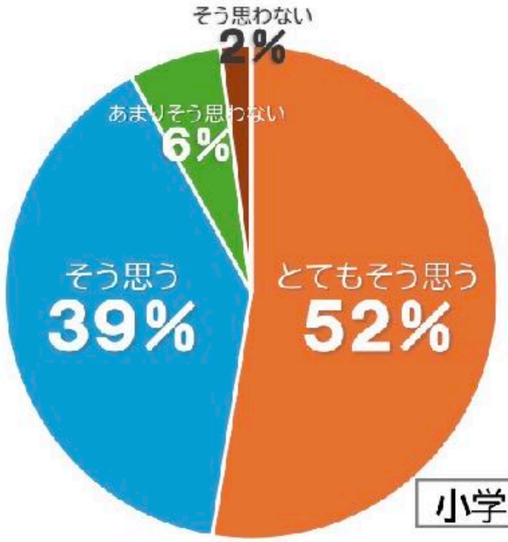


端末への意識（熊本市タブレットの約束への意識）

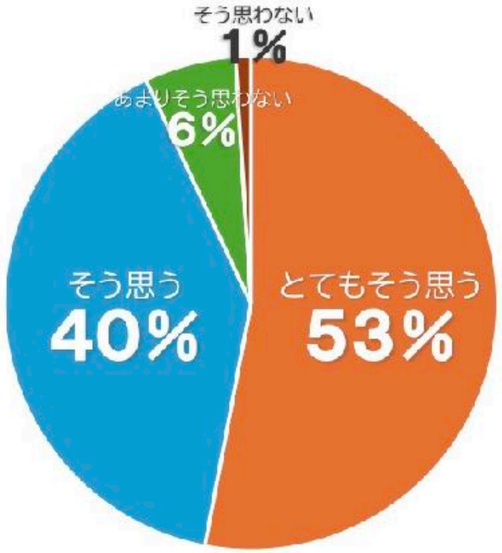
教 子

Q. タブレット端末を「自分のことも、相手のことも大切にした使い方」につなげられていますか

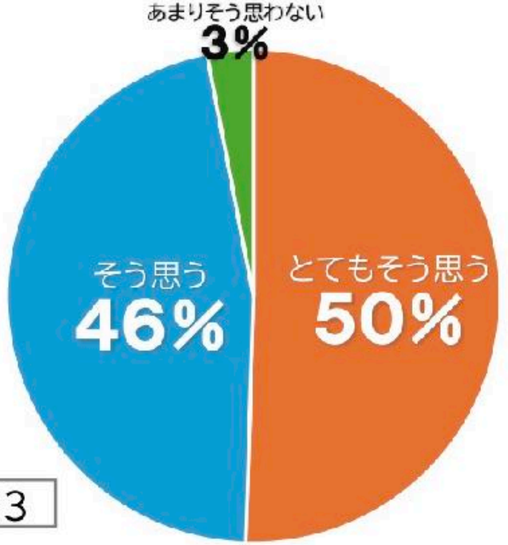
小1～2年生 n=9,085



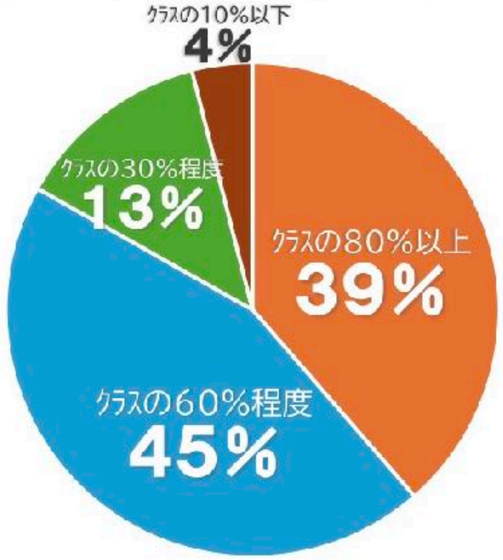
小3～6年 n=18,449



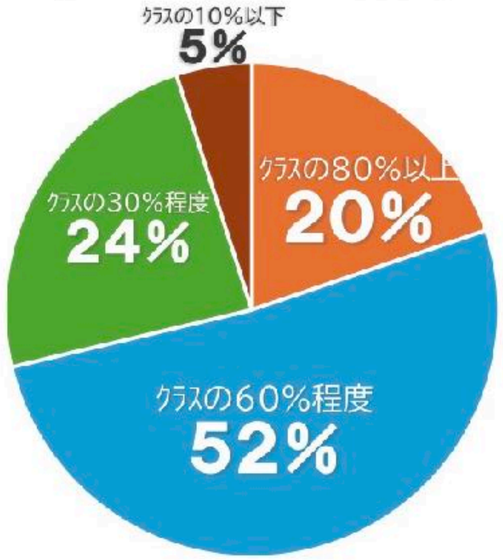
中学生　n=13,818



小学校教員 n=1,573



中学校教員 n=923

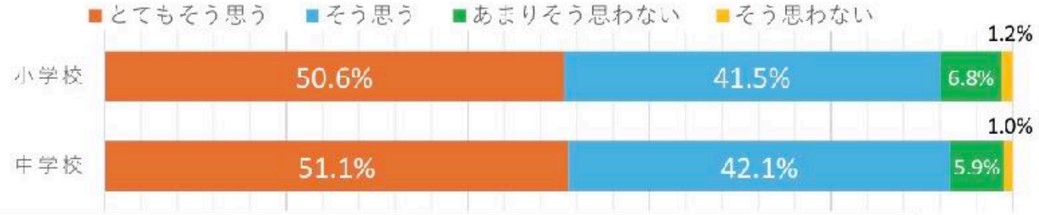


活用の効力感（端末の有用性）

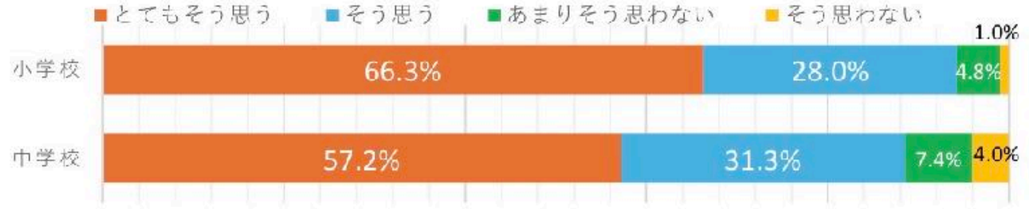
子

Q. タブレット端末を活用することで、
次のどのようなことがあてはまりますか

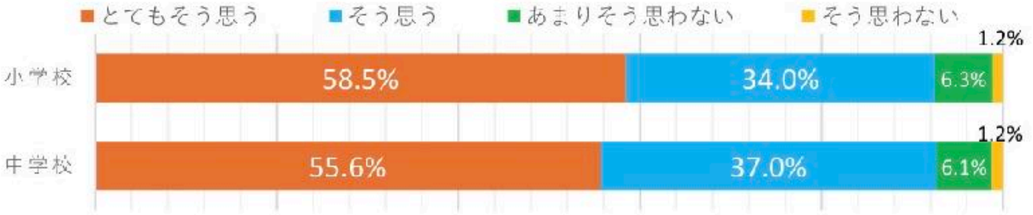
自分のペースで理解しながら学習を進めることができる



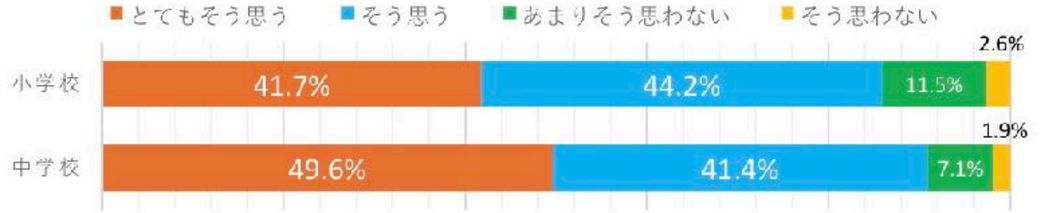
わからないことがあったら、すぐ調べることができる



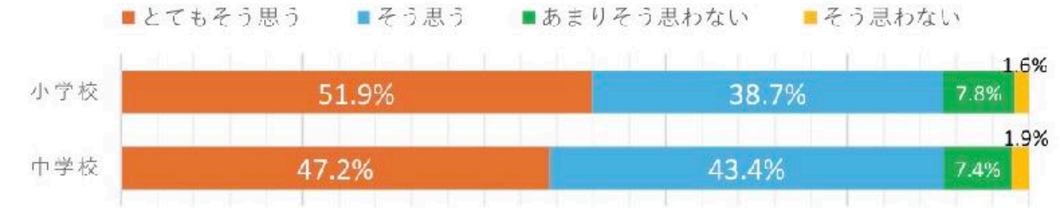
楽しみながら学習を進めることができる



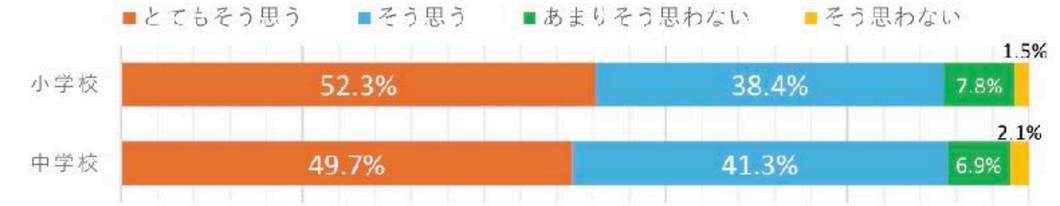
画像や動画、音声を活用することで、学習内容がよくわかる



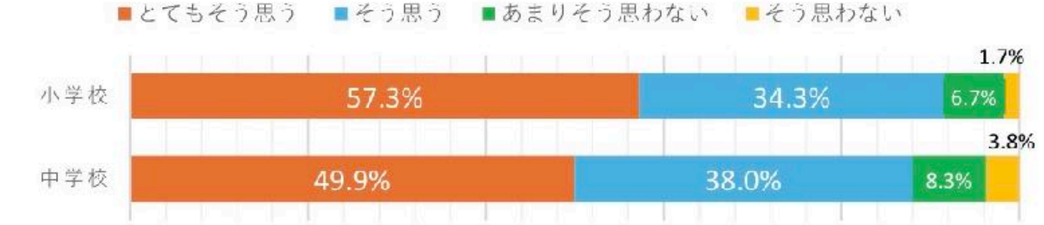
自分の考えや意見をわかりやすく伝えることができる



友達と協力しながら学習を進めることができる



友達と考えを共有したり、比べたりしやすくなる



活用の効力感（端末の有用性）

教

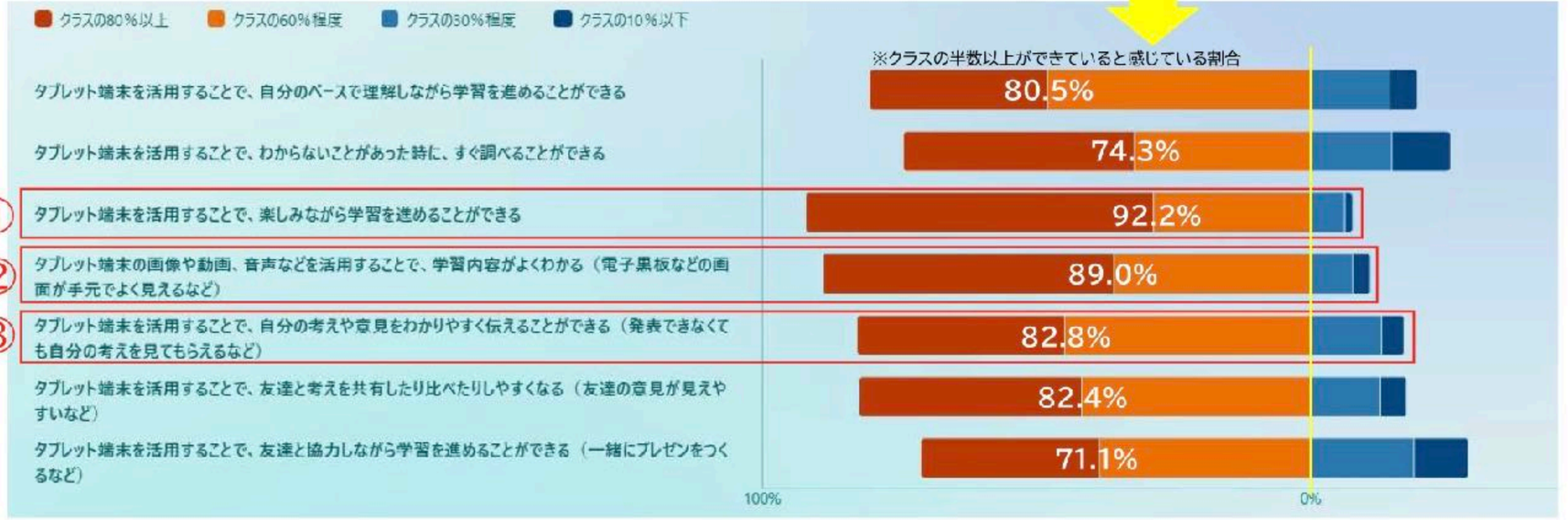
Q. タブレット端末があって良かったことを教えてください

小学校教員 n=1,573

1位 ※クラスの半数以上ができていると感じている割合
- 楽しみながら学習を進める（92.2%）

2位
- 画像、動画、音声などを活用することで、学習内容がよくわかる（89.0%）

3位
- 考えや意見をわかりやすく伝えられる（82.8%）



中学校教員 n=923

1位 ※クラスの半数以上ができていると感じている割合
- すぐ調べることができる （88.7%）

2位
- 楽しみながら学習を進める（84.1%）

3位
- 画像、動画、音声などを活用することで、学習内容がよくわかる （83.6%）



端末への意識（困ったこと）※複数回答可

子

Q. 学校のタブレットを使っているときに、
次のことがどのくらいあてはまりますか

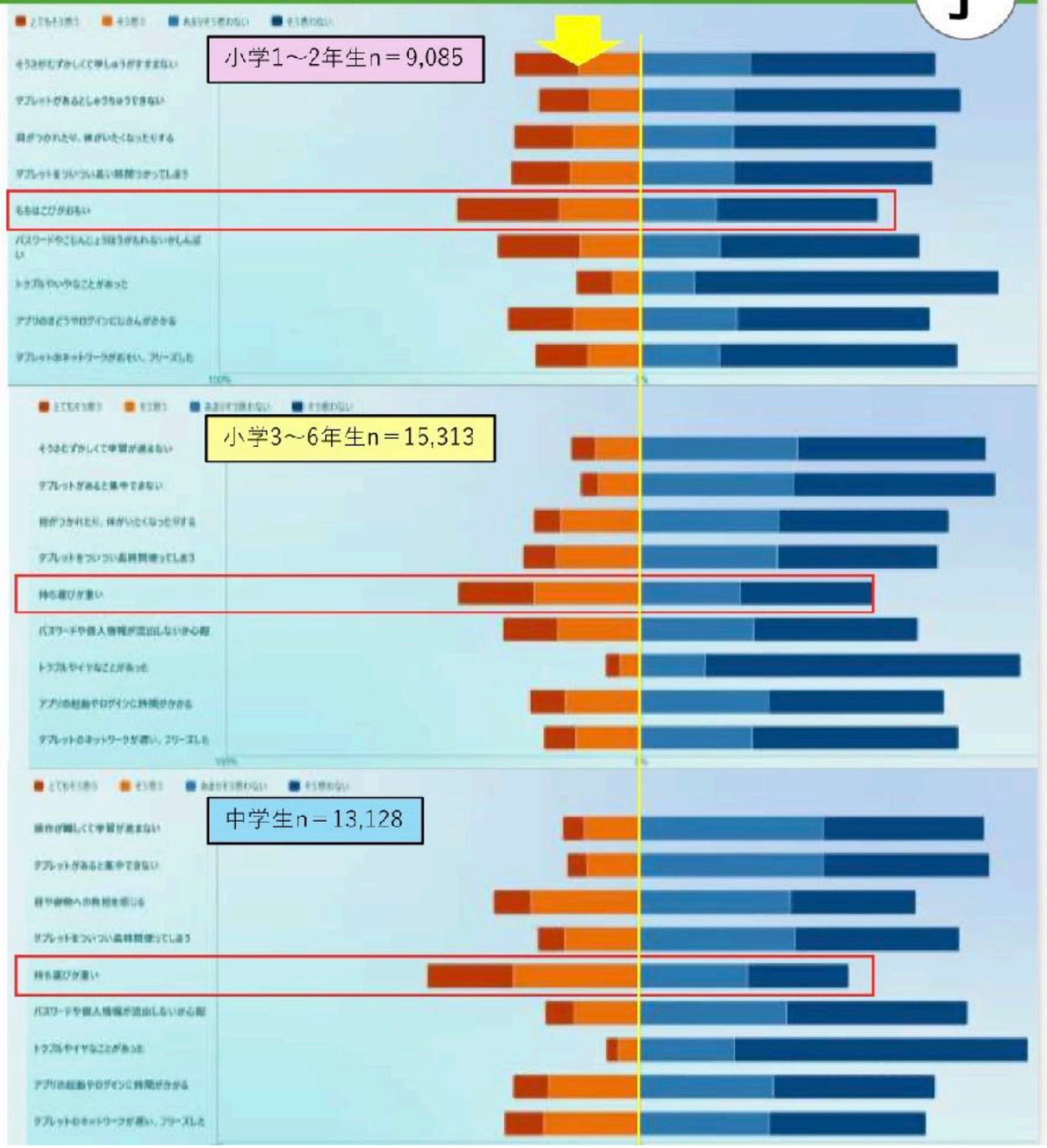
■とてもそう思う ■そう思う ■あまりそう思わない ■そう思わない

【学習面】
1. 操作が難しくて学習が進まない
2. タブレットがあると集中できない

【生活・健康面】
3. 目や姿勢への負担を感じる
4. タブレットをついつい長時間使ってしまう
5. 持ち運びが重い

【安全面】
6. パスワードや個人情報が流出しないか心配
7. トラブルやいやなことがあった

【環境面】
8. アプリの起動やログインに時間がかかる
9. タブレットのネットワークが遅い、フリーズした



端末への意識（端末が導入されて感じる児童生徒の変化）

教

小学校教員 n=1,573

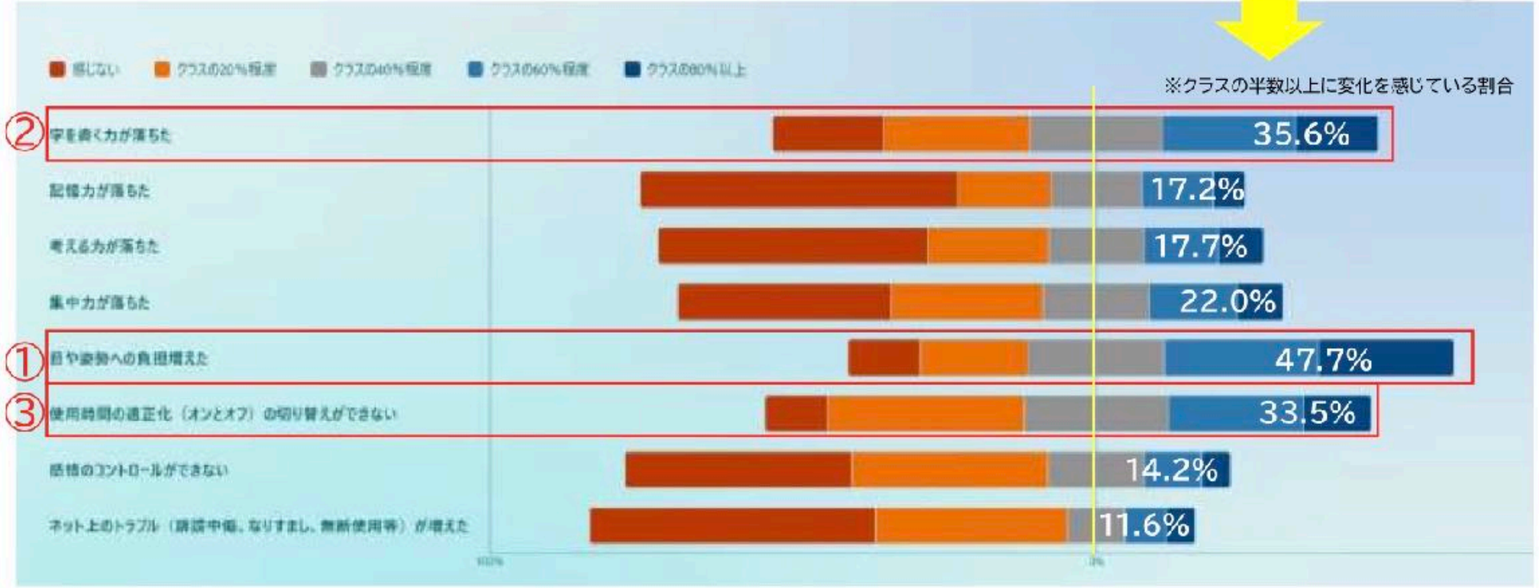
タブレット導入前から
授業をしていたか



タブレットが導入されて感じる児童の変化

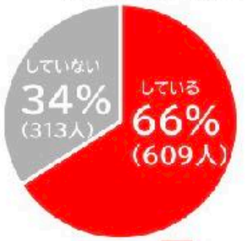
1位 目や姿勢への負担(47.7%) 750人
2位 字を書く力(35.6%) 559人
3位 オンオフの切り替え(33.5%) 526人

※クラスの半数以上に変化を感じている割合



中学校教員 n=923

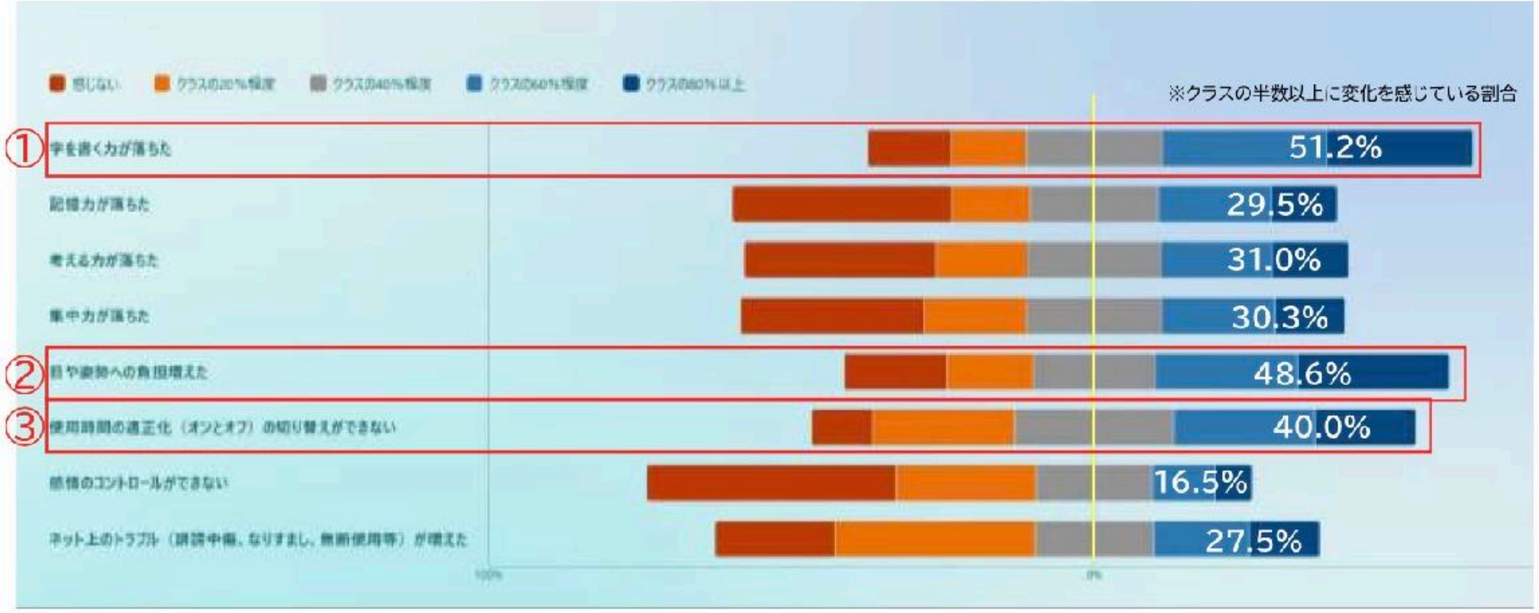
タブレット導入前から
授業をしていたか



タブレットが導入されて感じる生徒の変化

1位 字を書く力(51.2%) 472人
2位 目や姿勢への負担(48.6%) 448人
3位 オンオフの切り替え(40.0%) 369人

※クラスの半数以上に変化を感じている割合



教科の特性別の良さ

言語・思考系
（国語・社会・道徳・特活）

〈良さ〉
- 考えの可視化
- 意見共有
- 対話の活性化
- 多面的・多角的な見方

→思考を深める

理数・科学系
（算数数学・技術・理科）

〈良さ〉
- シュミレーション
- 動的操作
- 試行錯誤
- 概念の可視化

→概念を可視化する

表現・技能系
（英語・音楽・体育・家庭・図美）

〈良さ〉
- 録画、録音、作品保存
- 個別練習
- 技能の自己評価
- 振り返り

→成長を記録する

探究・生活系
（生活総合）

〈良さ〉
- 情報収集
- 試作と修正
- 制作過程の記録
- 探究活動

→探究と創造を支える

〈教科共通の課題〉

1　思考の浅さ
すぐに答えを差が明日、丸写し、英訳そのまま

2　書く力の低下への懸念
思いや考えを書けない、思考過程が残らない

3　学習規律・情報モラル
勝手な操作、チャットで悪口、学習に関係ない

4　デジタルへの偏り
具体物操作の減少、対面対話が弱い

- 「調べること」と「考えること」が混同
- 使う、使わない場面が曖昧

研修のカタチ①
「格差」に対応する





7年目で変化してきた現場のニーズ（導入時に小1児童が中1に）

格差の広がり

【背景】
- 導入研修を受けていない先生の増加
- 教職経験の少ない先生の増加
- 多様なこどもたちの増加
- 学調CBT化など教育DXの広がり



そもそも先生不足！
現場の疲労感を感じる…。



しかし、学びたい！という
意欲のある先生もたくさん！

一斉型研修からコース別メンター研修へ

【メンター研修の流れ（90分ver.)】

〈全体10分〉
・世の中の流れや現状
・研修の流れについて

〈標準アプリコース60分〉

〈学習支援アプリコース60分〉

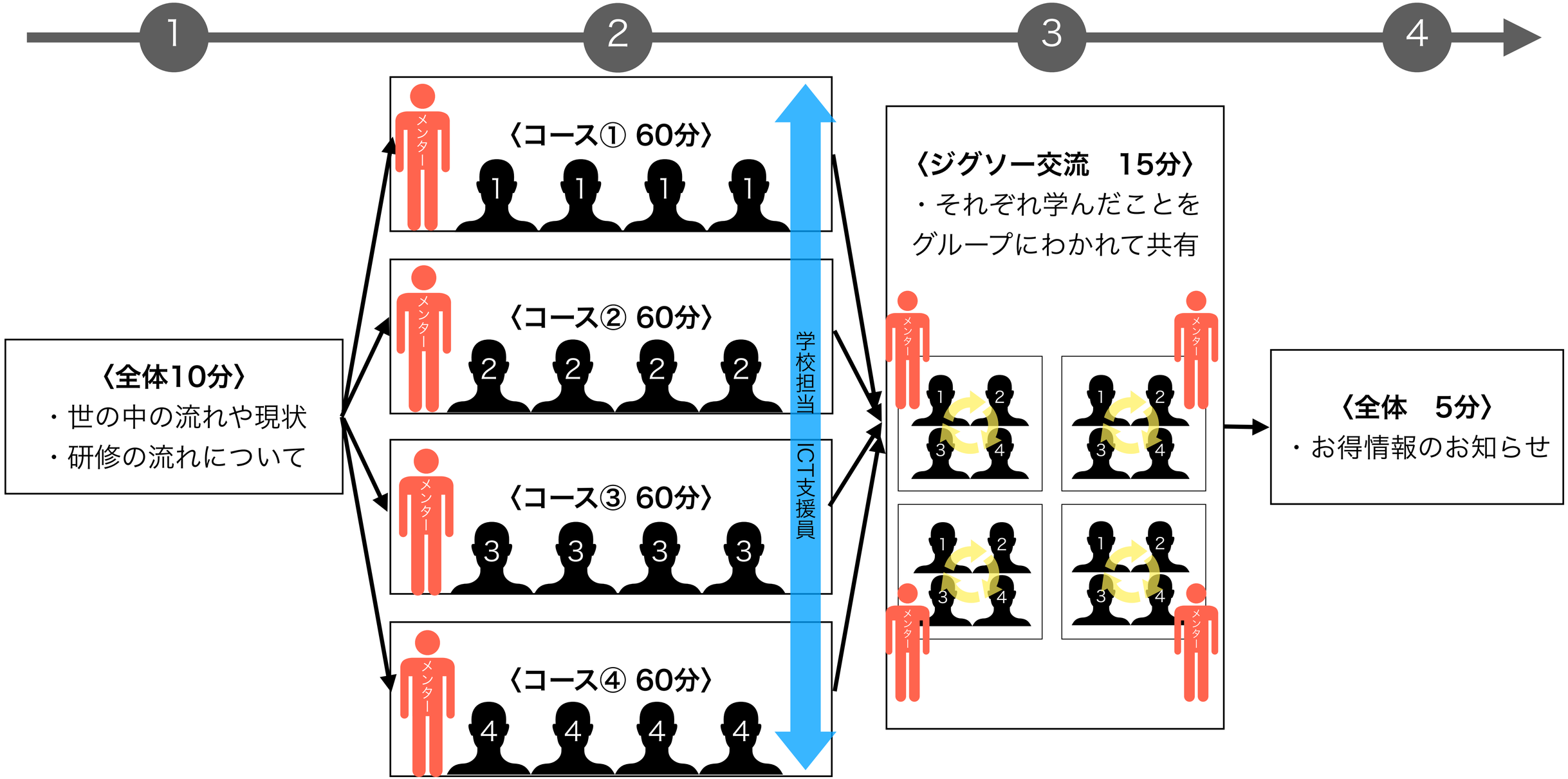
〈グループ共有10分〉
・それぞれ学んだことを
グループにわかれて共有

〈全体10分〉
・お得情報のお知らせ

- **学びたいことが学べたという満足感**
- **講師がいなくても誰かに聞けるという安心感**



【メンター研修の流れ（90分ver.)】



メンター研修…学校の先生がメンターとして各コースを受け持つ

グループ	研修内容	メンター
Keynote	「モーションパス」を使って お話を作ろう!	
Pages	ミー文字を使って、 〇〇新聞を作ろう! ※新聞づくりに写真が必要ですので、個人のスマートフォン等もお持ちいただけると助かります。	
GarageBand	リズムづくり & 場面にあう BGM を作ろう!	
Clips	基本的な操作 & ライブタイトルを使いこなそう!	
iMovie	グリーンバックを活用して、 夏休みの思い出紹介動画を 作成しよう!	








初めて使ったアプリだったけど、思ったよりも簡単！
生活科のまとめに使ってみたい！

研修のカタチ②

「プロジェクト学習」を体験する





職員研修
「やってみよう！プロジェクト学習」



テーマ発表



情報活用能力

役割分担をして1人で調べる



協働

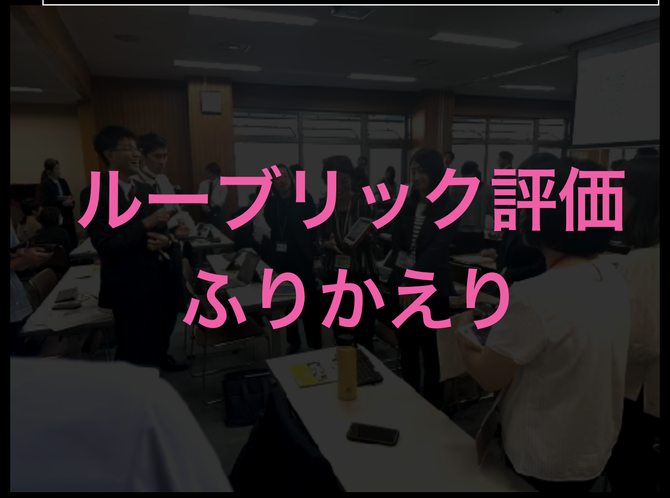
班に戻って整理分析

同じ担当が集まり情報交換



ジグソー法

発表・評価



ルーブリック評価
ふりかえり

協力しないと
難しい課題

研修のカタチ③

先生方のニーズに応える





現場のニーズに合わせた研修



- 電話一本
- リクエストを聞きながらの内容
- 校内研、学年部、有志など様々なカタチに対応





- 時間外の自主型研修
- どこからでも気軽に参加

電話1本で指導主事が出向くパッケージ研修



生成AI

56件

- 小学校・中学校
- 支援学校
- 事務・養護・司書

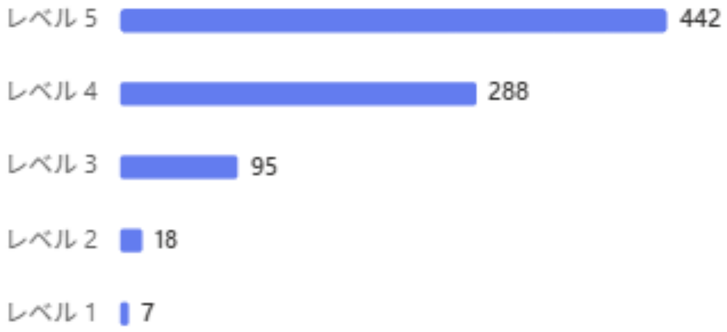
2026.11.17現在

電話1本で指導主事が出向くパッケージ研修

理解度

4.34

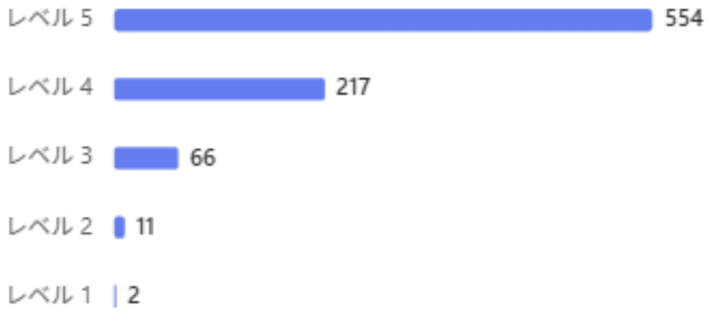
平均評価



満足度

4.54

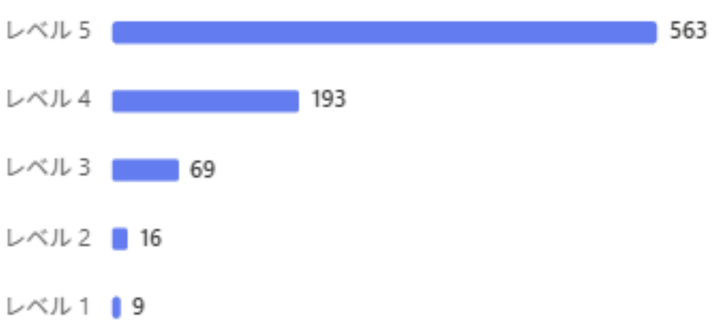
平均評価



使ってみたい

4.51

平均評価



先生の「やってみたい！」を育む
伴走型支援

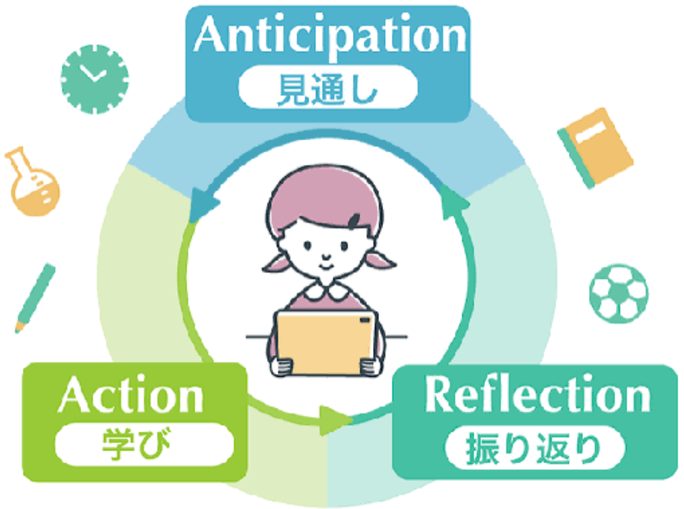




ともLinkスクール（研究指定校）

…研究領域別に、指導主事が伴走支援を行い研究を進める。

・研究領域：まなびポケット「AARポータル」
・推進チームからの希望制
　→4校（小学校3校、中学校1校）
・2学期～スタート



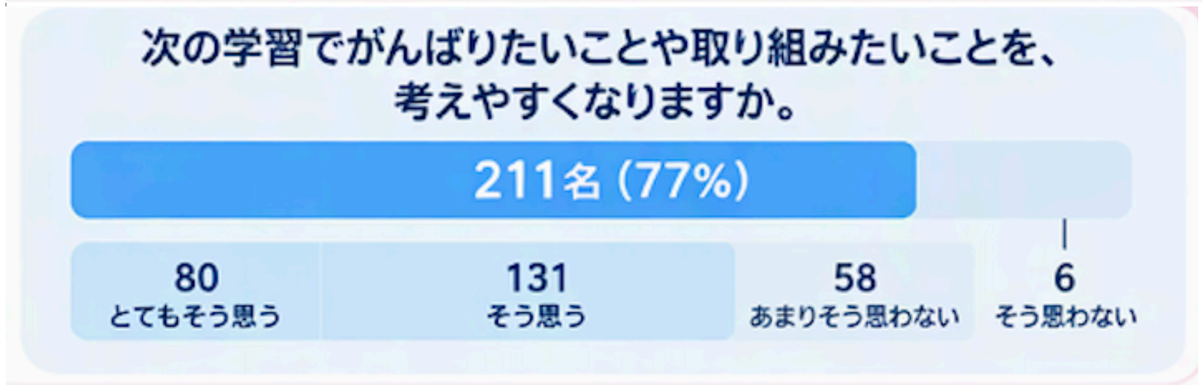


AARポータル1ヶ月アンケート

【児童生徒】







【教員】

